

令和3年度各職員による自己評価結果・改善策

子育てセンターひだまり

I「重点目標」についての検証結果及び改善策

重点目標を職員全体で取り組めるように働きかけ、子どもの主体性について様々な捉え方を学び合うことができた。主体性を学ぶ中で、遊びの連続性が持てるような環境を考えていくことが今後の課題であると感じた。絵本の取り組みは、子どもと職員が一緒に考え取り組む姿勢があり、相談に乗るなどしながら見守ることができた。

友達との遊びが深まり、主体性を育むための環境づくりでは、子どもの姿を追って読み取ることができていたが、環境づくりに関しては改善、工夫がまだ必要だと感じた。絵本の世界を楽しむという点では、年間を通して子ども達の好きな絵本を楽しんでいるクラスもあれば、様子が見えてこない部分もあったため、見える化できるようにクラス便りでもっと様子を伝え、保護者に発信できるように伝えていく。

主体性を育むための環境作り、絵本ということで、念頭にはおいていたが、自分自身主幹として様々な年齢にあったものであるか気に掛けたり声をかけたりすることができなかつたことが反省点である。様々なクラスに入って、クラスの職員と共に一緒に考えたり、アドバイスしたりできるようにしていきたいと思う。

園内研修で職員の発表を聞いたり、発表の準備をしたりする中で様々な気づきがあり、子どもの遊びを深めていくための関わり方を学ぶことができた。職員からのフィードバックがあったため様々な意見を聞くことができた。年間を通して、月刊絵本では子どもの疑問や気づきに共感しながら繰り返し楽しむことができた。劇ごっこでは「ざりがにのおうさま まっかちゃん」に親しみ、制作や世界観など実際の体験に照らし合わせながら学年で楽しむことができた。

重点目標を意識しながら、子どもが主体的に活動できるよう計画しながら実践してきた。絵本については、特に月刊絵本の興味関心を持つもののその場限りになってしまう事が多く活用の仕方が今後の課題である。

今年度2つの重点目標を取り入れた保育を心掛けた。子どもたちが主体となって遊び、生活していけるよう環境を整えたり、声を掛けたりすることができた。絵本においてはもっと生活に取り入れ、遊びにつなげていけるよう学びを深めたい。

年間計画を立てた上で、園内にある絵本や図書館などで子ども達があまり接したことがない絵本を選び子ども達と一緒に楽しむことができた。色々な絵本に触れる事で、子ども達の語彙力や他者への気持ちに気づけるような働き掛けやごっこ遊びがもっと広がるような環境設定を今後も考えていく。

保育教諭間で毎月「重点目標」について研修してきたことで、他の先生方の保育に対する考えや自分とは違う子どもの遊びの目の付け所を知ることができ、その都度自分の保育を見直すきっかけになったり、反省したりすることができ大変良い研修を行うことができた。

子ども達の様子や言葉から『やりたい』気持ちを引き出し、遊びを楽しめるように声をかけたり、一緒に楽しむことを意識して関わってきた。子ども達が自分で選んで遊べるように常に環境を子ども達に合わせて変えていくことが大切であると感じました。子ども達がいつでも自分のやりたいあそびが行えるように自分の遊びの引き出しを増やして環境を提供するように取り組んでいきたい。

主体的な生活や遊びの場面を捉えて発表する園内研修を通して、以前よりも子ども達の遊びの姿を注意深く眺めるようになった。すると、日々の保育の中には、その時の思いが詰まったキラキラした場面が溢れていることを再確認できた。また、友達との関わりによって、成長しているなど感じられる場面にも多く出会えた。絵本の世界を楽しみながら、無理なく発表会の劇へとつなげていけた。だるまちゃんの絵本の仲間たちが、各家庭で、子どもを通して広まっているエピソードを数多く聞けて嬉しかった。

日々の保育・教育の中で、導入や行事の説明の際に絵本うい使ったり、すぐ絵本に触れられるようにコーナーを整えたりして、絵本を身近に感じられるようにすることができ、楽しめていたと思う。しかし、絵本の選定には時間をかけて検討してから提供することができず、年齢にあったものを担任同士で話すことができるとよかったと思う。

子ども達と関わる時には常に意識しながら保育を行うよう心掛けた。

重点目標を意識して保育することができた。計画も意識して行っていたが、月案や週案に反映できた時とそうでない時があった。職員会議で重点目標の発表をしたり、他の保育教諭の発表を聞いたりして主体性について様々な捉え方ができ、自分自身の学びにつながってよかった。また、他のクラスの子どもの知らない様子も共有でき、その子との関わりも見直すことができた。

重点目標を意識し保育をすることができた。重点目標の発表を聞き、他クラスの一場面を知ることが出来、子どもの見方も少しずつ変わっていった。改めて保育者は人的環境であることに気づき、保育者の立ち位置、声掛けから子どもの遊びの深まりが変わることを感じた。また、自分自身の保育を振り、学びを保育に繋げることが出来た。絵本においても沢山の絵本に出会えるよう、読み聞かせの機会を設けた。絵本からごっこ遊びに繋げることもできたが、難しさも感じたため、柔軟に対応できるようにしていきたい。

絵本については、月刊絵本の活用や劇ごっこに取り入れれたりすることができた。子ども達が、絵本や紙芝居が好きなため読み聞かせの時間を多き設けたり、手に取りやすい場所に絵本を設置した。子どもの主体性では、会議等で自分が発表をしたり、他職員の発表を聞いたりして自分の保育に活かすことができた。担当クラスではないところの発表を聞くことで、それぞれの工夫や自分では気づけないことに気づくことができた。

今後も重点目標を頭に入れて日々の保育に努めていきたい。

Ⅱ「保育の計画性」についての検証結果及び改善策

『こどもがまんなか』を意識して職員に働きかけることができた。環境の構成では、職員が意識を持って取り組むまでには至らなかった面があったので、職員への投げかけを意識して環境面の改善に取り組んでいきたい。

主幹として、クラスや代表者カンファの時間をもっと作り出せると良かった。日々の保育内容と行事が自然なかたちで繋がっていくよう、個人的にも声掛けをし、職員全体の意識を高められるようもっと努めていきたい。

主幹の業務として、指導計画の添削等を丁寧に行ってきた。一方で、クラスや代表者カンファなど話し合いの時間を業務時間内で作り出してあげられなかった。個々での業務、クラスとしての業務など一人一人の職員が抱えている業務が見える化できるようにし、職員にも業務時間内でできるような意識を高められるよう努めていきたい。

子ども達の姿に合わせてねらいや活動を計画し、早く取り組めるように心掛けた。学年での話し合いの時間を設けられるように工夫して保育体制をとっていきたい。

同学年での話し合いも思うように持てない中での計画となり、取り組みが出遅れてしまいもっと見通しをもって保育計画をしていきたい。

子どもの発達や興味関心に合わせて環境を変えていくよう話し合い計画したが、早めに取り組めないことがあった。見通しをもって実践していきたい。

年間計画、月案、週案と連続性を持ち保育を行った。クラス担任以外の職員のアドバイスを受けて保育の中に取り入れたり、日々の活動は(散歩など)子ども達に事前に声を掛け子ども達の思いや考えをもっと保育・教育の中に取り入れた。

・保育活動を絵本と絡めながら計画を立て、環境を整えたり子ども達の気持ちを盛り上げたりしながら楽しんで保育に取り組むことができた。
・去年に比べると、トイレの使い方について子ども達への声掛けが少し足りず、子ども達の意識も薄れてしまったと感じる。子ども達に具体的に声を掛け、自分で意識して取り組めるようにしていく。

子ども達の様子に応じた計画や遊びの提供が大切であるとわかっているが、行事がせまってきたり、時間がなかつたりすると急かして遊びがおろそかになってしまうことがあった。子ども達の成長に合わせてできることを増やしていけるように声掛けや援助をしていく必要があると感じる。法人のグランドデザインを理解し、子ども達にどんな活動が良いかを考えて計画を立てていきたい。

バスに乗ったり預かり保育担当として、クラスを超えて園の子ども達に接することができることに、今、楽しさとやりがいを感じている。何気ない会話で心の距離が縮まっているように感じる。個別に対応を必要とする子にも、担任と相談しながら試行錯誤ではあるが、より良い方向に向かえるように、クラス内の自分の立ち位置でアプローチをしている。14時以降の青バスの子が待っている時間が、いつも同じような玩具での室内遊びになりがちであるため、過ごし方を考えていきたい。

指導計画は子どもの興味、関心を常に考え、作成することができたが、地域との連続性は欠けていることが多く、関わることを考慮することができていなかった。保育室は、安心して過ごせるように、整えたり、季節を感じ、興味、関心を持てるように装飾や展示をすることができた。保育教育について、他の学年の保育教諭に相談したり、参考にし、実行することができた。

日々の活動、行事に向けた活動の中で様々な素材や道具、環境を準備したり、些細な子ども達の気づきや反応、行動に気づき、その都度声を掛けるなどしていった。子ども達の気付きから次につなげていくという部分ではその場限りになってしまったこともあり、全ては難しいがもっと出来たら良かったと感じる。

計画が行事の直前になってしまったり、計画を立てたが、しっかり定まっていなくて変更点が多くなってしまったりと課題が多く残る。幼保での話し合いも薄く、月案に反映できないこともあったため、見直しを持ち、子どもの姿をよく見て立案していくようにする。また、玩具の偏りがあり、子ども達も飽きてしまう姿があったため、見直しの必要があったと感じる。

計画を立てていたが、遅れてしまうことがあった。幼保での話し合いを密に行う必要があると感じた。また、他の保育者の保育を参考にすることで、自分の課題が見え、子どもを主体とし、楽しい雰囲気の中、保育をすることが出来た。子どもの興味関心にあった絵本や玩具を提供するよう心掛けたが、玩具の変動が少なかった。季節の制作では装飾面に課題が残る。保育室の環境を整えていく。トイレの使い方などはわかりやすく伝え、最後まで見届けるようにした。生活習慣に繋がるため、今後も丁寧に見ていく。

学年、クラスで話し合いながら計画は立てられたかなと感じた。しかし、話し合いが遅くなってしまったり、幼保ですり合わせたりするのがなかなか出来なかったように感じる。自分たちで話し合いができる時間を見つけ、積極的に話し合いをしていくべきだった。子ども達にも見通しが持てるように伝えているように、自分も見直しを持って計画できるようにしていきたい。

日々の保育を反省し、次回に活かせるように努めている。また、他のクラスの情報を知り、お互いに協力し合ったり話し合ったりしているが、今後は、もっと深めていけるようにしたい。

Ⅲ「保育の在り方、幼児への対応」についての検証結果及び改善策

様々な子とかかわりが持てる立場の為、積極的に声をかけ一人一人の思いを受け止めるように努めた。また、支援が必要な子への対応に対し、職員の相談に乗ったり話を聞くなど一緒に取り組むことができた。今後も職員の連携を意識した保育に努めていきたい。

園全体として身近な動植物を飼育する環境が少なく、実体験が少なかったように感じる。散歩先や園外保育先では、生き物を観察したり生命の尊さに気付くような声掛けもしていたと思われるが、週の反省など具体的に見えてこない部分を記録に残し、次に繋がっていくようにしていく。

全体が見れる立場として、様々なクラスの子とも関わりが持てるよう心掛けた。また、クラスの子とも達の気になる様子や体調等、子ども達の所へ行き様子をみたり、クラス担任から情報を得て気に掛けたりすることができた。クラスを外から見ている視点として、クラスの教育・保育に対して様々な意見や思いを伝えられるようにしたいと思う。

子ども達が安全で健康に過ごせるよう、環境を整えることや約束事を繰り返し伝えることで子ども達の中で善悪の判断や危険を回避できるようにした。

異年齢の関わりや当番活動の在り方について、子どもにもっと持たせ方があったのではないかと改めて考える。支援を要する子の個別対応については、職員同士で話し合いながら対応するように心掛けてきた。

子ども一人ひとりの考えや姿を受け止めるよう心掛けた。子ども同士のトラブルや困ったことがあった際は、保育教諭が入りすぎないようにし、子ども達が自分で考えられるよう援助した。異年齢の関わりはあまり機会を作ることができなかった。クラスでの話し合いだけでなく、他クラスとも連携し、計画していきたい。

クラスの中で気になる子がいた為、話を伝える声掛けが大きくなってしまった事があった。コロナウイルス感染症予防の為、異年齢での関わりを持つことが難しかった。日々の生活の中での決まり事や約束事など絵本等で知らせたり、個々に援助が必要な子にも解かりやすく伝え一人ひとりの思いや考えを保育の中に取り入れた。集団になってしまうと話が入りにくい為、個別に深く話をする。

コロナ禍であったこともあるが、異年齢のかかわりが出来るような計画を立てることが少なかったと感じている。異年齢の関わりが深められるよう、具体的に計画し実践できるようにしていく。

子ども達とかかわる上で自分自身も楽しんで行うことを意識して関わってきた。子ども達と一緒に楽しむことで笑顔でいることで子ども達との関係が気づけてきたと感じる。つい否定的な言葉で声掛けてしまうことがあったので、肯定的な言葉を意識して掛けていきたい。一人ひとり個性があり、子ども達のやりたいややる気を引き出すための環境、言葉かけが大切であるので前向きに関わって行きたいと思う。

子ども同士の関わりを見守りながら、ケガのないように、咄嗟の行動やトラブルを回避するよう努めているが、集団生活では色々な事が起こりなかなかゼロにならない。職員間で共有し、環境を整えたり職員の関わり方を日々考えてはいるが、繰り返して起こさない為に、ヒヤリハットでしっかりとなぜなぜ分析をしていくことはとても大切と感じる。子どもの理解を深め、行動の理由について気付くことで対応の仕方が見えてくるという、野藤弘幸先生の著書を参考にして、自分の保育の質を高めていきたい。

一人ひとりの園児をよく観察し、話を聞いたり、言葉にならないサインを受け止められるよう、落ち着いた雰囲気の中で雰囲気の中で関わられるようにしたいと関わっていたが、自分に余裕がないときは、ゆっくりと話を聞くことができていることもあり、日々反省をしながら、同じようなことが繰り返されないように見直し、丁寧に関わられるようにした。

子ども達に対し自分対大勢ではなくそれぞれの子と1対1で思いを知ろうと来ることを大切にし、そこから集団での関わり、社会性へとという思いで保育を行った。色々な子ども達がいる中で全て平等には難しい部分もあり、また自分の対応が本当に子ども達にとって良かったのか考えさせられる場面もあったので、大切にしている所は変えず保育の仕方は見直していきたい。

入園したばかりの3歳児にとって、初めての集団生活ということもあり、気持ちに寄り添い、幼稚園が楽しいと思ってもらえるような人的環境であるよう心掛けた。子ども達の発見に耳を傾け共感し、トラブルは見守ったり、相手の気持ちが考えられるような声を掛けたりして、自分の中でもメリハリをつけて対応するようにした。異年齢の関わりは園庭などで見られたが、こちらの意図的な計画ができず反省する。

子ども一人ひとりの気持ちを受け止めながら、関わるよう意識した。初めての集団生活の場であるため、子どもがやってみたいと思えるよう、提供の仕方を考えたり、声掛けを行ったりした。また、見通しを持ちにくい子には、個別対応をするようにした。遊びの場面では危険意識を持ち、子どもと約束を確認しながら楽しく遊んだが、私自身遊びを深めるためのアイデアが少ないと感じる。教材研究や遊びのレパトリーを増やしていきたいと思う。

子どもを第一に考え、保育ができたと思う。子ども一人ひとりに向き合い、それぞれの個性を知るように心掛けた。子どもの気持ちを受け止めながらも、良いこと悪いことはしっかりと伝えるようにした。子どもたちが自分の言葉で気持ちを伝えられるように落ち着いた雰囲気作りや場所の提供を心掛けた。手遊びや歌のレパトリーが少なく、アイデアを出すことも少なかったため、自分の出来ることを増やし子どもたちに楽しい遊びを提供できるようにしていきたい。

褒めて対応していかなければならないと思っているが、難しい時もあることが反省。子どもへの声掛けを意識して対応していきたい。

IV「教員としての資質や能力・良識・適性」についての検証結果及び改善策

こども園となり、業務に困難さを感じたり、優先順位がつけられず戸惑うことがあった。職員の相談には耳を傾けて聞くようにし、お互いに協力体制をとり、全体の見通しを持って園の運営ができるように精進したい。

今年はキャリアアップ等の研修などに参加させていただき、学ぶ機会を多く頂いた。主幹としての仕事は、今年度より初めて行うことも多く、優先順位をつけて行っていたつもりであったが、考え過ぎてしまったり、要領が悪かったり反省する部分が多々あった。

主幹としての業務をまだ探りながら行っているところだが、見通しが持てなかったり要領が悪かったりして、現場の職員に伝達等遅くなり子ども達の活動を焦らせてしまうこともあった。主幹としての業務を明確化し、現場職員を引っ張っていく技量を身につけていきたい。

集団活動や集会では主体的に取り組めるよう集中できる環境を整えたり、自分事として話を聞けるよう子ども達の意見を聞きながら話を進めた。子ども達が主体的に活動に参加できるよう子ども達自身で考え、選択したり決定したりする機会を多く設けるようにした。
季節の行事や由来、食べ物など子ども達が興味をもてるよう絵本を用いて話をした。

仕事の優先順位を考えて進めてきたが、クラスだけの仕事だけでなく園全体を考えていくと、時間が足りなくて時間内に終わらせることが出来ない事も多くあり、仕事の進め方について考えていきたい。

挨拶や保護者とのコミュニケーションは積極的に行った。
仕事の優先順位を考えて行ったつもりだが、時間内で終わることが難しいことがあった。手順の見直しや工夫をしていきたい。

自分が上司、同僚、後輩、クラスの子供達にどのように見られているのかを常に考えて行動した。心良く仕事をする為にも表情や言葉使い等を付けていく。

・今年度はクラスの先生方と情報を共有し合い、「チーム保育」で子ども一人ひとりの小さな変化も見逃さないよう協力しながら保育を進めることができた。
・仕事の優先順位を考えて進めていたつもりではあったが、時間内に仕事が終わらないことも多々あったため、計画をしっかりと立てながら自分の仕事ができるようにしていきたい。

子ども達との生活は楽しさと難しさがあり、日々やりがいを感じている。どのように1日毎に進めていくか等を先輩保育教諭から見習い、少しずつ自信を持って保育を行えるようになってきたと思う。まだ、導線や仕事の効率が悪い部分があるのでどのようにして保育を行うことがよいのかを常に考えて行動していきたい。

自分自身の役割を考えて、どの位置にいてどの子の対応を今したら、他の職員と重ならずクラス内が上手く回るかなど、常に全体を見ることを意識して動くようにした。報告連絡相談のコミュニケーションを図ることを心掛けることで、チームであることを意識している。終礼の際にその日のことを伝えたり、他のクラスの情報も入るので、以前よりも園全体を理解しながら仕事ができるようになった。

飼育を保育・教育内ではすることができなかったが、栽培では、野菜に興味を持ち、園児が、自ら進んで、水やりや草取りが行えることができ、収穫も嬉しそうだった。また、図鑑や絵本も用意したり、散歩中にも、野菜への関心がみられた。物の管理、話を聞く大切さも常に声をかけたり、話はしているが、集会時にも、全体に話をして、確認をしている。

自分自身の全てが子ども達へ大きな影響があることを常に意識し言葉遣いや行動をしようと考えているが、とっさの対応では感情的な声色になった場面もあり、反省しどんな対応が良かったのかを改めて考え次の保育に活かしていかなければいけないと感じる。

研修に行かせていただく機会も多く、自分自身の資質などについて見直すことができた。園内のリーダーとしての動きが進んでできなかった。他の職員の疑問点や課題に思っていることを吸い上げ、みんなで考えられるような機会が設けられたらよかったと感じる。また、クラス内で掃除の分担が疎かになってしまったため、責任を持って行えるようにしていく。

初めての集団生活であったため園が楽しいと思えるよう私自身も、心にゆとりを持ち保育を行うよう心掛けた。子どもの声に耳を傾けたり、気持ちに寄り添ったりした。子どもの興味関心のあるものや季節の絵本や紙芝居を読んだり、活動の切り替え時に子どもが話を聞く姿勢になれるよう、パネルシアター等も活用した。園庭では他児との交流はあったが、異年齢児との関わりを計画できなかった。手伝いにおいて制止してしまうこともあった為、子どもの気持ちを受け止め何らかの形で提供できるようにしていきたい。

研修に参加したり、先輩に教えて頂いたりして伸ばすことができたと感じる。しかし、まだまだ未熟な部分も多く、頼ってしまう部分が多くあった。自分に余裕がなく焦ってしまったり、丁寧な保育ができなかった部分もあるため、計画的に仕事を進めたり、他職員と連携を取って仕事が進められたらよかった。

良識とマナーや組織の一員としての在り方などは、自分なりに責任をもって取り組んでいる。

V「保護者への対応」についての検証結果及び改善策

コロナ禍で行えない行事等があったが、やらないのではなくできる限り行える方向で考えていくことの大切さを学び、取り組むことができた。誠意を持った対応を心掛けたが、うまく伝わらないことがあったので、相手を思う気持ちをもっと大事に考えるようにしたいと思う。

保護者参加行事は、運動会で保護者参加の競技を入れられたクラスもあったが、なかなか実施することができず参観をしてもらうことをお願いしていた。今年は主幹としてクラスから離れてしまっていたため、保護者に向けて具体的に就学を意識した話を自分から発信することができなかった。直接的ではないが、クラス便りを添削する時に年長では、就学を意識した内容を載せてもらうよう対応した。

コロナ禍でなかなか園内に入れない状況下、玄関での受け入れの際も積極的に声をかけていくように心掛けた。保育部、幼児部関係なく様々な保護者の方に声をかけていくように努めた。保護者の方が抱える悩みだったり、不安だったりを聞くこともあると思うので、様々な保護者の方の声に寄り添えるよう自分の知識も高めたいと思う。

どんな時も保護者の立場に立ち、丁寧に関わることを意識することができた。1日の様子がすぐに浮かばなかったり、スムーズな対応がとれなかったりしたこともあったため、アンテナを高く持ち、一人ひとりに同じように関わっていきけるようにする。

今年度も多少の制限がありつつも、ボランティア活動の参加であったり、園内に入れるようにまであり少しずつではあるが園内の様子も伝えていけるようになった。が、保護者の保育参加まではいかない為子どもたちの様子は引き続き、口答であったりブログや手紙で詳しく伝えていく。

園での様子等できるだけ保護者の方とのコミュニケーションを取るよう心掛けた。就学に向けての知識が浅く、他職員に聞き対応することがあったため、学びを深めていきたい。

年長児の為就学に向けての相談や面談など誠意を持って丁寧に行ったり、クラスだよりやブログ等で子ども達の様子を細かく知らせた。

コロナ禍で園内に入って子どもの様子を直接見て頂く機会をなかなか作ることができなかったため、送迎の際や電話にて子どもの様子を丁寧に伝える努力をした。どうしても、気になることが多い子どもの保護者に対して話をすることが多くなってしまいがちであったように思う。保護者には皆同じように話ができるように心掛けていきたい。

保護者対応は苦手意識があり、まだ経験も少なく、言葉や伝え方の難しさを日々感じている。保護者に園での様子を伝え、安心して通えるように声をかけることをこれからも意識していきたい。保護者との関係を気付くためには積極的に関わっていく。先輩職員の方がどのように声を掛けているかを聞いて自分も見習っていかしていきたい。

伝達を受けたり頼まれたことは、責任を持って伝えるようにした。体調等の様子の聞き取りも丁寧に行った。朝の預かり青バスの迎えの職員として、いつもの顔で保護者に安心して預けてもらえるように、明るい挨拶やコミュニケーションを心掛けている。週の予定がパソコンにて配信されるようになり、クラスだよりとしては月一回になった。保護者にとって様子を知れるのは日々の活動のコメントと対面の会話だと思うので、温かさが伝わる差のない対応をしたい。

相手が不快な気持ちにならないような雰囲気作りを心掛けている。話す、聞く態度は常に丁寧にできるようにしている。親しくなった中にも友達同士の話し方にならないよう配慮する中で、語尾も気をつけるようにした。電話の際は、相手の表情や様子が見えないため、丁寧に話す中で、要領よく簡潔にはできていなかったと思う。

勤務時間の関係で全員の保護者と顔を合わせる事が出来ないが、会えた時には短時間で子ども達の様子を伝えることを心掛けた。他職員に協力してもらい伝えたりした。

子どもの発見やつぶやき、成長などを保護者にこまめに伝えることを心掛けた。保護者が園内に入れない分、保護者の不安や問いかけにも耳を傾け、姿を共有できるようにした。お便りやブログも活用しながらクラス全体の動きや成長も伝えるようにしたが、伝わりきっていないところが多く、課題が残る。伝えたままにせず、確認ができる方法などを考えていきたい。

日々の子どもの様子・成長過程を、どの保護者にも伝えられるよう意識した。面談でも園での様子だけでなく、家庭での困り事などを尋ね、保護者と一緒に子どもの姿を捉え、援助方法を探ったり、提案したりして子どもの成長を見届けるようにした。また、相談事は一人で留めるのではなく、必ず他職員と共有し確認してから対応するようにした。保護者からの情報は守秘義務を守り、書面に残すようにした。ブログでの発信が少なくなってしまったことが課題である。計画通り行えるよう、責任をもちたい。

玄関対応だったり、保護者の出入りが可能になったりと色々変化のある年だった。玄関対応でも、その他でもなるべく、どの保護者ともコミュニケーションが取れるように心掛けた。直接、質問を受けた場合も曖昧な答えを出さないようにし、報連相を意識して、混乱を招かないように心掛けた。

保護者の方よりの話をしっかり聞き理解するように心掛け常に信頼関係を大切に接している。

VI「地域の自然や社会とのかかわり」についての検証結果及び改善策

朝散歩やいもほりなど、地域の自然を活かした活動を行うことができた。地域の一員であることを常に考え、園として取り組めることを今後も模索していきたい。

今年度も感染症対策として、地域の方との関わりが制限されてしまう部分があったため、敬老会には園児が作ったしおりを送るなど、間接的でも繋がりをもてるよう、できることを行っていった。今まで経験していたことが途切れてしまわないように、職員間でできることを検討しながら行っていきたい。

地域とのかかわりがなかなか持てない中、できることを探っていく必要があると感じている。年々かかわりを深めてきていたの
で、繋がりが途切れないよう努めていきたい。園周辺にも様々な自然があるので、散歩等で足を運び、自然に触れられるよう努めていたと思う。

園外保育のため、様々な公共施設に下見に行ったり、地域の方に挨拶に行ったりした際、丁寧に挨拶をするように心掛けた。場所をお借りした際は、忘れ物や片付けの確認を丁寧にすることができた。
地域の自然物や動物などに興味や愛着を持てるよう、子ども達と調べたり名称を伝えたりした。

今年度も制限がある中、お茶摘みやさつま芋の苗の植え付け、芋ほり等の直接体験をすることができた。地域の行事こそは体験できないものの、間接的に関わることもでき形は色々ではあるが社会との関わりを持ち続けていく。

地域施設との夏祭り交流や散歩での地域の方との交流等関わりを持つ事ができた。その時々、状況に合った地域との関わり方を考えていくとこの大切さを感じた。

散歩に出掛ける際には、挨拶を子ども達と一緒にいった。コロナウイルス感染症の為子ども達が他者の方と接触する事が困難であるが、接触しないで出来る事を考えて行動出来たらと思う。

・園外に出掛けられるようになり、少しずつではあるが地域の自然に触れる機会ができ、子ども達と楽しめるようになってきている。自分自身も地域について積極的に学んだり、情報を得たりすることを努力し、保育活動に楽しく取り入れられるように工夫していく。

まだ、園の周辺のこと知らないことが多いと感じた。園の周辺や市内の交通状況、福祉事業等をもっと知っておいて詳しく知りたい。保護者から聞かれたときにお持ちいただいて確認することが多かったので、聞くことも大切ですが、答えられることも増やせるようにしたい。

朝散歩に秋から出掛けるようになり、子ども達にとって体力作り、日々の活動の充実感に繋がってる。園内だけでは経験しえないことを、地域から受けていると思うので、今後も積極的に出掛けたい。また同時に、地域に対してひだまりの保育を公開しているということも忘れずに引率をしたい。小学校に上がるまでに育みたい10の姿を意識して、年齢に合ったいろんな経験をさせてあげ、成長につなげていきたい。

散歩先の名称や地域の人と出会ったときには、挨拶や会話を楽しむことができたが、行事には参加することができていない。支援センターの利用者に挨拶はするようにはできたが、会話までする余裕がなく関わることはできなかった。

園庭、散歩などの戸外遊びの際に子ども達気づきを大切に共感したり周りの子に伝えたり、自分の知識を伝えたりした。自分の声の聞こえた子には伝えることが出来るが全員に伝えることが出来ないものもあり、伝える場面の工夫、計画性が必要だと感じる。

散歩に出掛け、自然に触れる機会を増やせたことはよかった。園周辺には魅力的な自然がたくさんあるため、計画的に出掛け、五感を刺激していきたい。学校関係や地域について関心は持っているが、実践や交流が少なくなってしまったため、この新型コロナウイルスの状況下の中でもできることを見出すことができたよかった。

立ち止まって挨拶をするよう心掛けている。園外先でも、地域の方に進んで挨拶をするようにした。人生の基盤を培っている時期ではあるが、目の前の姿を捉えるだけでなく先を見通して、保育・教育を行うようにしている。繋がりのある保育を心掛けていたが、経過規制に欠ける部分もあった。生活や遊びの中で、様々な経験ができるよう計画的に保育を行っていききたいと思う。地域資源はあるが、散歩以外であまり活用できていなかった。感染症の件もあるが、何か案を見出して行けたらと思う。

地域の自然には多く関わったかなと感じる。散歩に出掛けたり、芋堀に出掛けたり、子ども達もそうだが自分自身も自然に関わることができた。残念ながら、社会に触れる機会はコロナで激減したが、年中年長さんは、絵を飾らせてもらったり、サッカー等で他園との関わりを持っているのかなと思う。作品を作って飾るのも、関わられる一つの策かなと思う。

地域の方との挨拶を心掛け、相手にとっ気持ちの良い対応をしていきたい。

Ⅶ「研修と研究」についての検証結果及び改善策

職員が意識を持って保育できるよう計画した園内研修を行うことができた。自身では、多方面から保育を見つめるよう専門書を読むようにしたが、中途半端で終わってしまっているため、時間を上手に持つようし、学びの場を確保したい。

職員会議など、園内で研修する機会があり、自己の学びにつながっている。学校評価では、以上児クラスの参観の際に、保育計画のアドバイスや振り返ることができたが、未満児クラスに対しても学校評価に問わず、同じような場が保育のどこかで設けられると良いと思った。日々の保育の教材研究について、職員で話しをしたり、研究できる時間の作り方を考えていきたい。

今年はなかなか研修などに行く機会がなかった。コロナ禍で研修の機会も減ってきているので、自分で書籍などから知識を得るなどして、自分の知識を高めたい。

参考書を読んだり、職員会議で研修報告を聴いたりして自分の保育を振り返り、声掛けや関わり方、環境構成などを改め実践することができた。子ども達への遊びや活動方法については十分に活かせなかったため工夫していきたい。

園外研修が無くなり園内研修での学びとなったが、自己学習をもっと増やし周りの職員と共に学びの質を上げていきたい。

他園職員と情報交換することができ、遊びの提供や環境づくり、支援の方法等学びになった。研修での学びを活かし、日々の保育に活かしていきたい。

パソコンでの研修に参加したり、厚生会での研修に参加し他の方の話を聞く大切さを改めて感じた。アレルギーに対する認識などマニュアルを再度確認することにより、事故を未然に防ぐ心構えが出来た。

- ・自己学習をしながら保育に取り入れていくことはできたが、他の先生方と共有する時間がなく詳しく伝えることができなかった。
- ・自分の得意分野だけでなく、いろいろなことに興味を持ち勉強する姿勢を忘れないようにしたい。

コロナの影響であまり研修に行けなかったですが、園内やzoomでの研修ができたので良かった。愛着や配慮が必要な子への関わりについて学ぶことができ、意識して保育を行えた。来年は自分の苦手意識のある制作絵画、ピアノ等研修を受けたいです。また感染症や救急についての知識をしっかりと身に付けておきたいと思う。そして、研修で学んだ内容を日々の保育に活かせるようにしていきたい。

「リフレーミング」を知った。ネガティブ言葉をポジティブ言葉に置き換えることにより、その子の見方がプラスに転換され、子どもにとってもポジティブな声掛けによって自己肯定感が上がり、互いに良いことが分かった。ついそのままに表現してしまいがちであるため、リフレーミングの習慣を持てるように、心のゆとりと、褒めるフレーズの言葉のポケットを大きくしていきたいと思う。個人的には、音楽への関心が増した年だった。劇の演出等で、ピアノの音で表現できる幅を広げることができた。

コロナ禍の中で、なかなか研修に参加することはできなかったが、気になることは調べたり、本を読んだりして自己研鑽できるようにした。また、数少ない研修の中でも、園児一人ひとりを思い浮かべ、日々の保育への反省、考察をし、常に考えて、保育することができた。

研修で学んだことを自分の保育に活かそうと意識するが、具体的に計画したり活動を行ったりするまではいかず、意識するという程度であったと思う。

研修に出掛け、自分自身を見直すことができた。学んだことをすぐに子どもとの関わりで試し、姿が変わると嬉しく、学びがより深まったように思う。しかし学んだことを周りに伝えたり、返したりすることができなかつたため、会議などで報告を丁寧にできたらよかった。

一人ひとり成育歴が違うため、子どもを取り巻く環境について、他職員とも話し合い、どのように援助したらいいのか考えたり、参考書を参考にしながら保育構成を考えたりしている。また、研修で学んだことは他職員にも伝え、共有している。研修時には自分の保育と照らし合わせているが、時間が経つと意識が薄れてしまうことがあったため、日々自己の振り返りをし、学びを活かしていきたいと思う。

定期的に園内研修を行ったり、会議等でも研修を行ったりしている。今の時期、コロナ等で大きな会場での講演を聞いたりできないため、リモート、Zoom等での研修になっているのはいいと思う。実践で活かせる研修をたくさん受けていきたい。

自分の保育にマンネリ化にならないよう新しい保育を吸収したり、今までのやりかたを振り返ったりする。

「外部アンケート」からの検証結果及び改善策

職員の言動については、研修を行ったりしながら意識を高めてはいるが、持続して学び合うことが必要であるので今後も行うようにしたいし、自身の対応も気にかけて改善したい。様々なご意見をいただくことは関心があることと有難く捉え、改善しながら保護者と共にひだまりの良さを確認していきたい。

保護者にとって受け取り方も様々なため、どの方にも丁寧に対応していくことが大事だと感じる。気持ちの良い挨拶や丁寧な受け答えなど、相手の立場に立ちながらできることから始めていきたい。
コロナ禍で制限されることもあるが、園でできることを明確にし、間接的にでもとりくんでいることは発信していく。

この状況下で、活動や行事などに制限があるが、この中でやれること、やっていることを発信し、私達職員がやっていることをアピールできるようにしていきたい。アピールできる場として、ブログ等を職員の負担ない程度にあげられるようにしていきたい。どのお家の方も気持ちが良いなと感じてもらえる関わりがもてるよう引き続き心掛けていきたい。

アンケートの回答を見て保護者の思いを知ることができ、改めて1日の様子を伝えたり、気持ちの良い挨拶をすることの大切さを感じた。また、保育室への入室ができなくなったことにより保育環境への不安・心配があることに気づき、1日の活動内容やおたより等で発信するようにしていきたい。

保護者は、日頃の子どもの様子や保育者の行動、園内の様子を知りたいと思っているし、関心を示しているので、今やれることを引き続き行い、保育者は子どものモデルとなるよう日々の振り舞いを見直し意識して行動していく。

子ども、保護者への対応や挨拶等気を付けているつもりだったが、受け取り手がそのように思っていない場合できていないのと同じだと感じた。自分の保育、態度を日々振り返り見直していきたい。

保育部・幼児部と分かれていて、感じ方や見方が全く異なっているのを感じると共に改善出来る事は直ぐに改善していく。直ぐに改善しない事は不信感に繋がると感じる。自分自身も相手の方も心良く過ごせるようにしていく。

今回は保育部の保護者のご意見も知ることができ大変新鮮であった。厳しいご意見もあったがすぐに対応できることは改善する努力は怠らず、「ひだまり」を信頼し子どもを預けて下さっている保護者に安心してもらえる園を全職員で作ってきたい。

お迎えの際に「おかえりなさい」等をどの保護者の方にも言ってしまうていたが、色々な家庭があるため、言い方を気を付けなければいけないと改めて感じた。コロナで園内の様子が見えないので、不安な家庭が多く、子ども達の様子をわかりやすく伝えたり、おまかせシステムでそうすることが大切であると感じた。自分自身、言葉足らずの説明になることが多かったので、丁寧にわかりやすく伝えられるようにしていきたい。

大きく変わったことは、健康連絡ノートがなくなり、おまかせシステムの導入や打刻を保護者にお任せするようになったことである。コミュニケーションを取りにくくなったという意見もあるため、対面での保護者対応を大切にしたい。コロナ禍の園の対応や行事の開催の仕方にも理解があり、職員の努力や苦労工夫に対する感謝の声もあり、おおむね安心して預けて頂けていることを嬉しく思う。

初めての以上児クラスの担任となり、全体的に自信がなく、評価につなげることができていないなかにもわからないことや気になることは先輩や同僚に聞きながら、保育に活かし、進めることはできていた。今後はこの経験を活かし、自信を持って保育ができるようにしていきたいと思う。

満足度調査の結果を把握して自分の保育を振り返り、同じ行動を繰り返さないようにした。

挨拶についてや、保護者との関わりなどは、意識しているが、それが相手に伝わっていないと意味がないと感じた。「自分はしているから」と満足するのではなく、お互いが気持ちよくなるような関わりを続けていきたい。清掃は自分自身も気づいたらやる、と定期的に責任を持ってできていなかったため、気持ちよく過ごせるような環境の見直しを徹底していきたい。

私たちが気づけていない、保護者視点からの様々な意見があった。信頼あつての園運営だと思うため、自分たちにできることは何か考え、日々丁寧に保育、環境整備にあたりたいと思った。また、意識しているつもりでも、相手に伝わってなかったり、関わりに差が生まれてしまっているのだと思った。おまかせシステムになる等、IT化も進んでいるが、直接的なコミュニケーションを大切にしていきたいと思った。

利用者満足度調査を取り、良い意見や指摘される部分もある。自分たちでは、日頃気づけない部分も保護者の目から見て気づく部分もあるため、有難い意見が頂けて良いことだと思う。私たちもそれを受け止めてすぐに改善していく。改善方法は、クラスや全体で話し合えてると思う。

外部アンケートより色々な御意見や感想を知ることで自分自身の保育や言動を振り返ったり反省したりするきっかけになった。